

沿岸部における防災対策の強化

「国道2号沿岸部防災対策検討委員会」・「国道31号・185号沿岸部防災対策検討委員会」設置

- ・平成16年は、台風16号・18号の相次ぐ来襲と高潮により、沿岸部の国道では一部崩壊や全面通行止め等の被害が発生。

台風18号来襲時
(平成16年9月7日)

越波状況

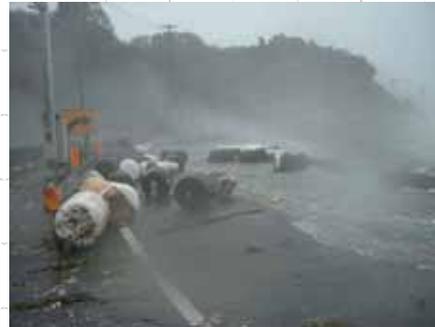


185号 竹原市忠海町

越波状況



185号 呉市安浦町



路面冠水状況



185号 竹原市竹原



31号 呉市狩留賀

今後も同様な高潮被害が発生することが懸念されるため、**地域の防災力の一層強化**を目的に**道路管理者と関係自治体や海岸管理者等が一体となって**、道路並びに海岸部の防災対策の検討と着実な対策を実施するため「**国道2号沿岸部防災対策検討委員会**」(H17/5)及び「**国道31号・185号沿岸部防災対策検討委員会**」(H17/7)を設置。

沿岸部防災対策検討委員会開催の自治体との合同防災訓練概要

「国道2号沿岸部防災対策検討委員会」・「国道31号・185号沿岸部防災対策検討委員会」による取組

訓練内容と特徴

広島国道事務所と沿岸部を国道が通る自治体等が、初めて合同で取り組む防災訓練。

情報収集ツールの拡大策や各関係機関が持つ情報を相互に素早く共有化する訓練。

広島国道事務所が保有するCCTV画像情報を関係自治体に配信し、災害対応等において広くその活用を図る訓練。

CCTV画像配信に加え、大野町と広島国道事務所間では、相互の災害対策室を結ぶTV会議形式による訓練。

道路情報モニター、ロードセーフティステーション(コンビニ)からの情報入手訓練



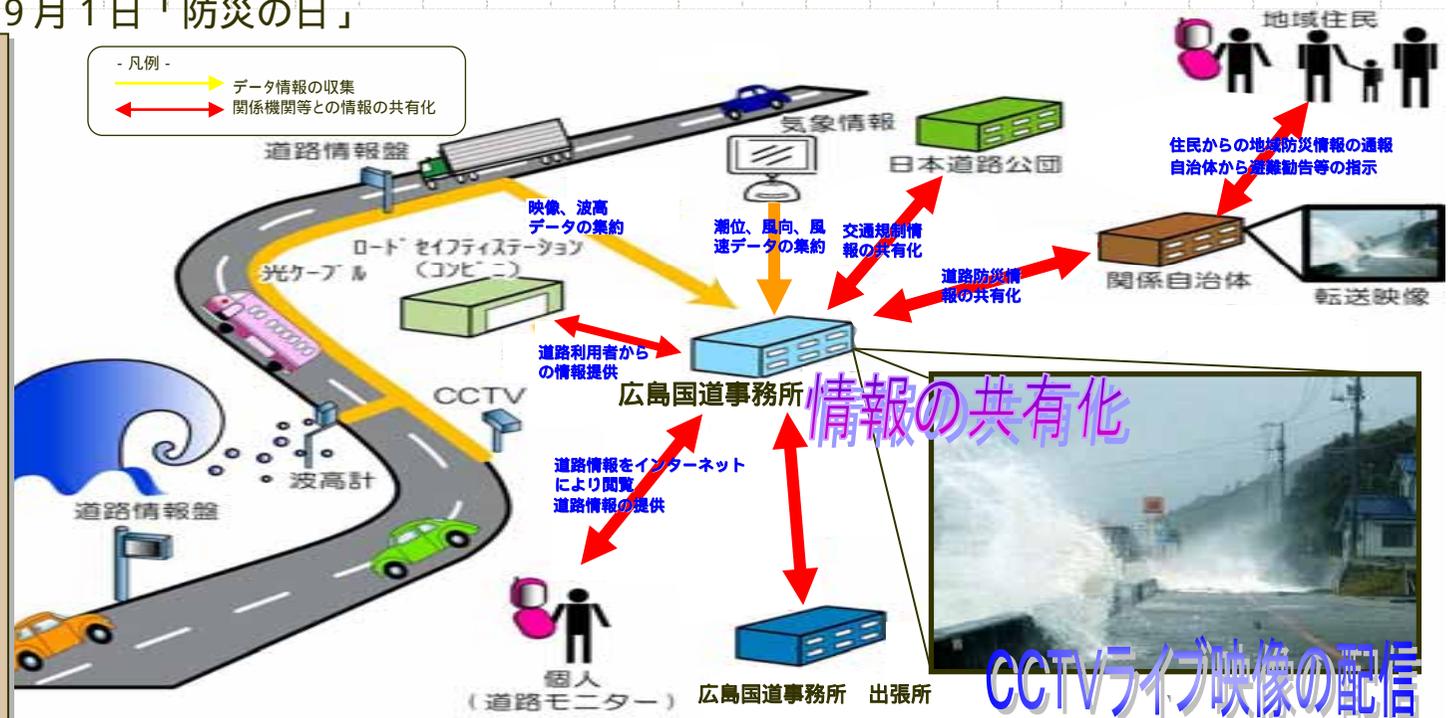
訓練実施日 平成17年9月1日「防災の日」



大野町笠井町長とTV会議により、災害対応策の協議を行う上田事務所長



CCTV画像情報を確認する大野町笠井町長(左から2人目)と堀野助役(左から1人目)。TV会議により、広島国道事務所上田事務所長と協議



「国道2号沿岸部防災対策検討委員会」「国道31号・185号沿岸部防災対策検討委員会」訓練参加機関一
JH中国支社、広島県各地域事務所(広島、廿日市支局、呉、東広島、竹原支局)、廿日市市、大竹市、大野町、呉市、坂町、東広島市、竹原市、広島国道事務所

大型台風14号来襲時における実践

- ・ 9月1日の訓練実施後、**わずか5日で大型台風14号来襲**（9月6日～7日）。
- ・ 訓練同様、自治体へCCTV画像をリアルタイムで配信、災害関連情報の共有。

CCTV画像リアルタイム配信（沿岸部防災対策検討委員会構成団体への提供画像）

- ・ 各自治体は、確認したいカメラを選択



国道2号大野町鳴川の越波状況
（9月6日22時～7日2時40分 全面通行止め）



国道185号竹原市竹原の路面冠水状況
（9月6日22時～7日1時15分 全面通行止め）

CCTV画像確認による自治体の具体的効果

【大竹市災害対策本部の取組事例】

- ・ 9月6日17時15分
大竹市唐船浜地区18世帯・32人に対し避難勧告実施

- ・ 国道2号鳴川地区のCCTV画像を確認。
越波の影響がなくなった状態を確認

- ・ 9月7日 1時00分
大竹市唐船浜地区の避難勧告を解除



台風来襲時避難勧告が行われた唐船浜地区



ひろくの主な災害対応

9月5日

- 10:40 警戒体制発令・パトロールの強化
CCTV画像配信・情報提供



9月6日～7日

国道2号（大野町丸石～大竹市玖波）

- 16:20 規制対応職員配備
- 22:00 越波による通行止
- 0:45 点検・応急復旧作業開始
- 1:45 自治体等へ応急復旧作業進捗状況と規制解除予定を連絡
- 2:40 規制解除

国道185号（竹原市竹原 竹原大橋付近）

- 19:10 規制対応職員配備
- 22:00 路面冠水により上り1/2車線 全面通行止め
- 23:25 全面通行止め
- 1:10 規制解除

国道185号（竹原市竹原 竹原自動車学校前）

- 0:15 路面冠水発生を確認
- 0:20 全面通行止め
竹原市より下水ポンプ故障の連絡
竹原市と連携し排水支援を実施
- 1:15 上り1/2、下り1/2車線規制で解放
- 3:38 規制解除
- 4:23 規制解除

9月7日

- 6:00 各出張所管内一斉パトロール開始
- 9:05 パトロール終了
- 9:15 警戒体制解除

大型台風14号来襲時における実践での評価

自治体との連携による災害対応力が実現

・大野町より、国道2号冠水危険ありとの緊急情報を受け、土嚢設置を行い通行止めへの回避が図れた。

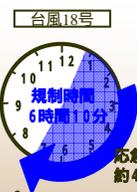


大野町からの情報提供を受け設置した土嚢

・国道2号の越波による通行止め区間は大野町から飛散ゴミの集積場の提供を受け、応急復旧作業が迅速にでき早期交通解放が可能となった。

規制時間短縮

昨年の台風18号時に比較して、約1.5時間の通行規制時間を短縮。



規制時間は約1.5時間短縮
作業時間は約2.5時間短縮

ただし、台風18号とは、台風規模等が異なる。(参考1参照)

・竹原市より下水道ポンプ故障による路面冠水情報を受け、広国は迅速に排水支援を実施。



沿岸部防災対策検討委員会の成果（首長等の声）

委員長（広島大学大学院工学研究科 土田 孝教授）

・“情報の共有化”について、目に見えた効果を説明するのは難しい。しかしながら、今回の合同防災訓練や実際の台風時において、関係機関間で規制情報やCCTV画像情報、被災情報が共有されたことで、昨年の台風時に比べて規制時間の短縮が可能となるなど、一定の効果があったと言える。今後は画像情報の提供先をさらに拡大していく必要がある。

竹原市長

・台風来襲時の強風、雨の状況を職員が時間をかけず危険を冒すことなくリアルタイムに画像で現地状況が確認でき、竹原市としては、災害時における非常に重要な設備であると認識した。竹原市と広島国道事務所との災害情報伝達等の連携が強化され、多くの成果があった。

・この度の台風14号来襲時において、市のポンプが故障し路面冠水したが、広島国道事務所のポンプを貸出す旨の連絡があった。今後も管理者間の連携による災害対応が図られていくことを期待。

・改善事項は、カメラ設置台数の増加、自治体での操作が可能となるようにしてほしい。

大竹市長

・CCTV画像は、満潮時の国道への越波状況がわかり、避難勧告を実施していた沿岸部地域の避難勧告解除に役立った。

・設置箇所が増設されれば、さらに避難勧告等の判断等の貴重な要素となる。できれば画像をより鮮明に、また自治体での操作が出来ないか。

大野町長

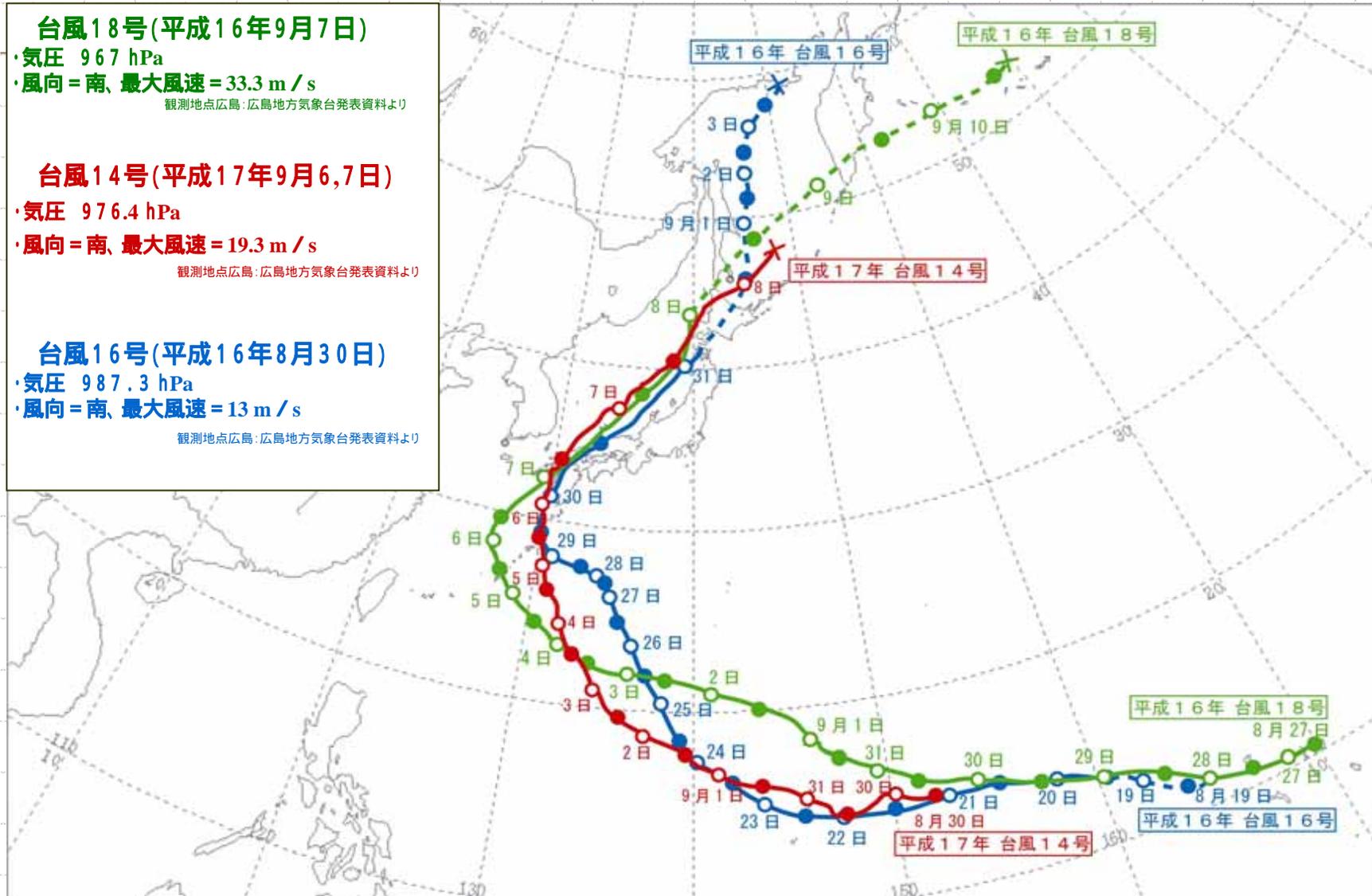
・現地で波の高さと道路状況が的確に把握でき、避難勧告を判断するのに役立てることができた。

・改善事項は、画像の動きと明瞭さである。

高潮・越波被害の発生した台風14号の軌跡

参考 1

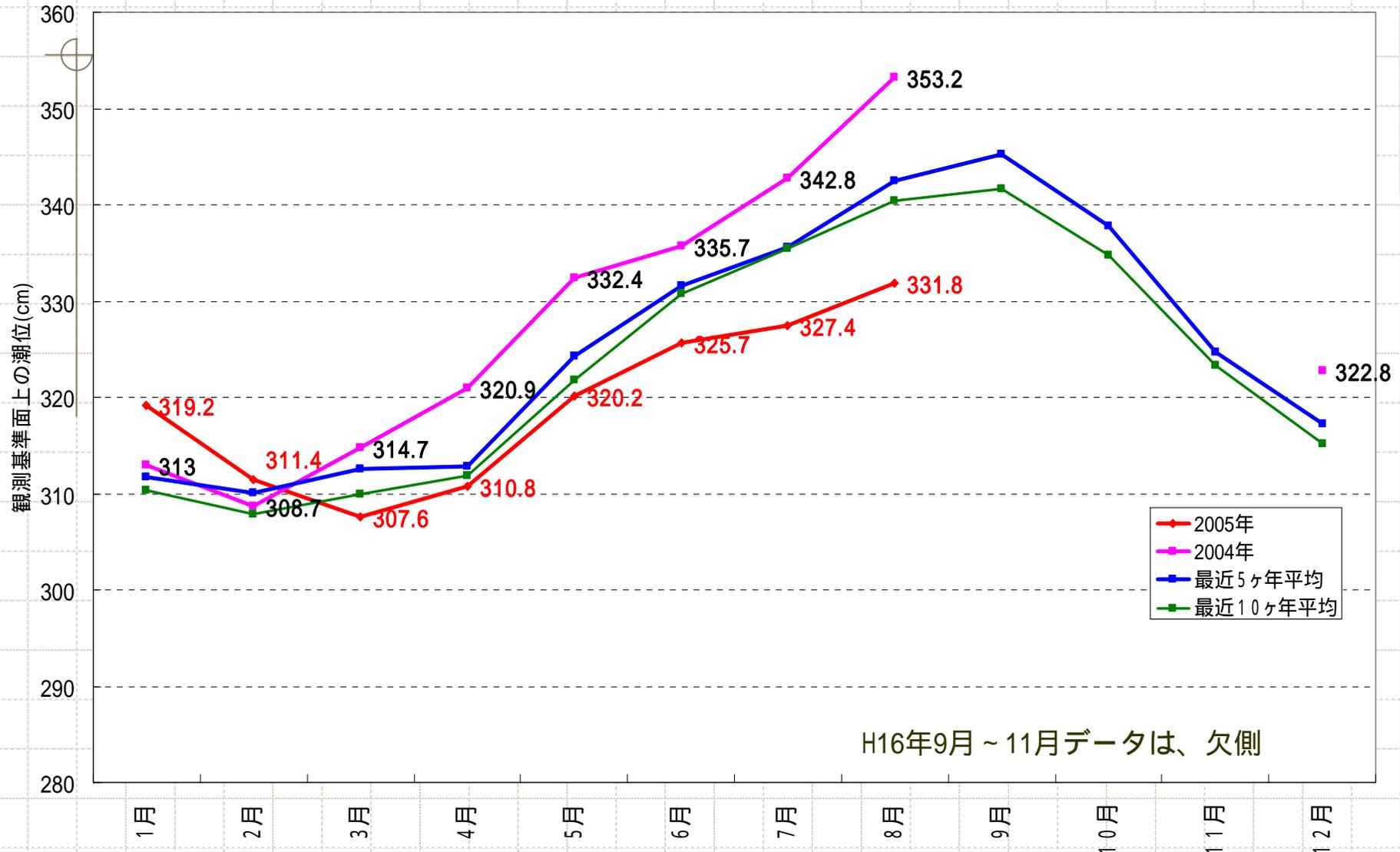
台風14号は、昨年大災害をもたらした台風16号、18号の通過コースといずれも類似している。
また、昨年の台風18号から丸1年経過後に来襲。



広島湾における潮位の変化〔月別変化〕

参考 2

今年の月別平均潮位を昨年と比較すると幾分低い傾向にはあるものの、今後も台風14号規模の大型台風を想定した備えが必要。
【広島検潮所平均水面の変化】



H16年9月～11月データは、欠側